

オーガスタのまなざし



主教 小林 尚明

『感激しました』

6月12日(水)～13日(木)北関東教区 志木聖母教会を会場に開催された日本聖公会婦人会第26(定期)総会に、教区婦人会会長の赤木輝美子さん、3名の役員さん、上原信幸教区婦人会チヤブレンと共に出席しました。出席教区は、東京、九州を除く9教区でした。東京教区は2003年に脱会されていますが、これから高橋宏幸主教が傍聴者として参加されています。また昨年未だに脱会された九州教区からは、女性の課題担当者2名が傍聴されています。九州教区は、教区としては脱会されたそうですが、個人会員として、60名以上の方が日聖婦と関係が続けられるそうです。

『感謝箱献金』

役員会報告、感謝箱献金事務局(コア)運営委員会などからの報告、20の議案が

承認されましたが、感激しましたのは、感謝箱献金の奉献先についての丁寧な説明でした。プロジェクトで、写真や新聞を映しながら説明くださいました。『感謝箱献金お助け先原則』の2「献金を送るだけでなく、お助け先の人たちと互いの顔が見える関係を築いていく」ことを大切にされているからでしょう。

また、総会の最後にアルディナウペポ現地コーディネーターの桜木奈央子さんの現地報告をお聞きしました。ウガンダでの厳しい生活の中で、夢を叶えていく子供たちの成長に立ち会っている喜びをお話くださいました。私も何か、協力したいと思いましたし、こうした報告・喜びを神戸教区の婦人会のみならずと分かち合えないだろうか、と考えたことでした。

「日本聖公会次期会長選出教区選挙」で大阪教区婦人会が当選されましたが、こうした婦人会や感謝箱献金事務局(コア)の働きは、「大変だ!」と言われる。しかし、大変だから自分たちはしない、というのであれば、それは間違いで、大変だけれども、そのことはイエス様が喜んでくださることだ、と思えるのでありますが、やるべきことと思うのです。どうでしょうか。

(神戸教区主教)

パイプオルガンミニコンサート

6月16日(日)14時から神戸聖ミカエル大聖堂で、片桐聖子氏によるパイプオルガンミニコンサートが行われ、約120人の方々が演奏に耳を傾けました。片桐聖子氏は、聖ミカエル大聖堂から徒歩数分の所に位置するお隣の教会・日本キリスト教団神戸教会のオルガニスト他、神戸女学院オルガニストとしてもご活躍中です。



年に1回、秋に行うパイプオルガンコンサートの2回、今年も初夏と秋のミニコンサートにする、これまでの土曜日午後から、日曜日午後の日程で開催する、などを新たな試みとして企画しました。また初めて聖公会以外のオルガニストに演奏をお願いし、近隣教会との交流を含め、より多くの集客を期待しました。

また聖歌309番「たたえの調べを PRAISE MY SOUL」と482番「いつくしみ深き友なるイエスは WHAT A FRIEND」を皆で歌い、コンサートを終えました。

演奏者の伴奏による会衆賛美は恒例となっていますが、初めて教会に来た方々にも好評のようです。聖堂内に賛美の歌声が満ちあふれ多くの方々の心を動かすことは、コンサート開催の目的の一つで、聖堂に集う人々が、奏でられる音楽を通してより豊かな福音の恵みに与れるように、と願っています。

プログラムはJ.S.バッハの作品をメインとして構成され、オルガン曲で有名な「フリーガト短調」や「G線上のアリア」、コラール「最愛のイエスよ、われらここに集いて」などの有名で親しみやすい、情緒あふれる作品から、ヴィヴァルディ作曲の協奏曲をバツハがオルガンに編曲したものやギルマン作曲の作品など、重厚な低音が響き渡る壮大な楽曲までバラエティに富んだものでした。

当日オルガン維持のために捧げられた自由献金は69,449円でした。この紙面を借りて御礼申し上げます。

今年9月にオルガンは、奉献6周年を迎えます。2回目の秋のコンサートは、11月10日(日)、神戸教区オルガニスト伊藤純子氏が演奏予定、たくさんの方々がお越しくださいることを願っています。

(原田里香子・パイプオルガン委員)